

想像出来るものは全て 叶えることが出来るものだと
遙か昔に誰かが書いた何かの本で読んだんだ
実現出来るものはいつか 必ず壊れてしまうものだと
遙か彼方に誰かが置いた汚い本で読んだんだ
そしてとても幼くて そしてとても無力な僕は
僕が想像するものは必ずいつか壊れてしまうと 何よりも早く信じていたんだ

笑っているものは全て 幸せを生きているものだと
遙か遠くで迷わず歌う何処かの歌で聞いたんだ
生まれてきたものはいつか 必ず死んでしまうものだと
遙か未来を夢見て眠る少女の部屋で聞いたんだ
そしてとても平凡で そしてとても淋しい僕は
幸せに慣れている人も必ずいつか笑えなくなると 何よりも強く思っていたんだ
頭ならずっと前から狂っているし ^{こころ}精神ならずっと前からこぼれているよ
身体ならずっと前から崩れているし ^{いだ}希望など抱く間もなく指の隙間から逃げていたよ
泣いて世界が変わるなら いくらでも涙を流してみせるさ
想いが枯れて涙を無くしているのなら 針を刺してでも瞳から紅い ^{しずく}雫を流すさ
たったそれだけで本当に望みが叶うというのなら



手に触れられるものは全て 目で見ることが出来るものだと
きっと社会が認めた人の気取った声があったんだ
耳に聞こえるものは全て 耳がなくても感じられると
いつも小鳥の鳴き声を嫌う教師が手話で言ったんだ
そしてとても儚くて そしてとても小さな僕は
当たり前出来る人はそのことの価値を知りはしないと 何よりも深く ^{わか}理解っていたんだ
悲鳴など今じゃとっくにかすれているし ^{おえっ}嗚咽など今じゃとっくにありふれているよ
痛みなど今じゃとっくに忘れてるし 悲劇など ^{あす}前触れもなく明日のベッドをさらってばかり
消してしまいたくないのは 未だ幼い僕の感情だけで
賢いフリをする大人びた経験が 何度も何度も僅かに残った欠片を削るけど
たったそれだけが本当の望みを見つけてくれそうで



世界に平等などは存在しない あるとするのなら誰にでも等しく降り注ぐ
不平等という名の平等だけで
それを知った所で何も変わらない 変わるとするのなら意味もないのに世界を恨む
予言者たちの当たらぬ理想だけで
僕がそれを知ったのは とても古い記憶の最果てで